

聖霊降臨後第12主日（特定16） ペトロの信仰告白

「イスラムについて知りたい。」とある人から言われて、関係のある映画や本など、いくつか調べるようになりました。イスラムについての映画や本は買っていたのですが、十分に意識して見ていなかったもので、その気になって調べてみると、発見することがたくさんありました。

イスラムの聖典は、コーランだけだと思っていましたが、ユダヤ教のモーセ五書と言われる創世記から申命記、そしてダビデの詩編、それに新約聖書の福音書は信徒に読むように勧めているんですね。

ただ、「聖書の伝えるノア、モーセ、キリストはみな預言者であって、最後に神様は、ムハンマド（今までマホメットと呼んでいましたが。）を選ばれた」と言うのです。

「ザ・メッセージ」という映画の中では何度も彼らの信仰告白「神は唯一なり。マホメットは神の使徒（メッセンジャー）」が繰り返されます。そして、多神教の町メッカで迫害されたマホメットたちは、一神教である、エチオピアのキリスト教徒の王を頼って、保護してもらいます。その出会いで信仰の問答をするのですが、コーランに描かれたイエス様の母マリアの物語を語る中で、お互いの信仰の重なる部分が多いことなど、ハッとさせられるシーンがたくさんありました。

さて、今日の福音書は、「ペトロ、信仰を言い表す」という見出しがついている箇所です。これは、イエス様を神の子と告白することが大切なんです、イエス様の活動の転換点と言える箇所です。

イエス様は、弟子たちを集めて神の国、天国がどのようなところであるのか、弟子たちに教えました。それは、種まきの話だったり、パン種の話だったりしたのですが、その後、この世で神の国を体験させるために、パンと魚を大勢で分け合って食べたり、病人を癒したりしました。すると周りの人々がイエス様の所に押しかけてくるために、弟子たちの教育ができる環境ではなくなってしまいます。

それで、イエス様は、先週の聖書の箇所では、弟子たちを連れて、唯一外国へ行かれたのでした。地中海沿岸の「ティルスとシドン」という町で、弟子たちの教育をしようと思われた時のことが語られていました。イエス様をとっかめようとする律法学者やファリサイ派の人々は、外国人との接触をきらうので、そこまでは来なかったのですが、イエス様の力を頼って、自分の子どもの病気を治してほしい、という女の人がやってきました。

最初、イエス様は「自分はイスラエルの失われた羊にだけ遣わされている。」というふうにして、イスラエルという限られたところが御自分の仕事の場であって、その外に出てゆくのは、自分の弟子たちが、使徒として、教会を発展させる時だ、と考えられたからでしょう。しかし、目の前の、必死に願っているカナンの女性の願いを叶えてやった話でした。

イエス様の、弟子教育は、大体今日の箇所で終了し、この後は、エルサレムへのぼって、贖いの業を完成させ、十字架に架かるため、まっすぐに都を目指して旅をされることとなります。

そういう意味で、今日の福音書でイエス様が質問された言葉は、弟子たちが、イエス様の教育を受けて、使徒として働いてゆけるかどうか、教育のおさらいである試験をされたこと、ととらえるのがいいと思います。

その試験というのは、イエス様が何者なのか、イエス様が来られた目的を、弟子たちが理解しているかどうか、ということでした。

最初は一般的な質問をされました。「人びとは、人の子のことを何者だと言っているか」というものでした。この質問は、その後の、「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」という、本当の試験問題をするための準備問題みたいなものです。

弟子たちは、人々が「洗礼者ヨハネ」「エリヤ」「エレミヤ」「預言者の一人」などという世間の評価を伝えます。それらは、神様から遣わされた立派な先生、宗教家という評価です。

しかし、その後の質問をすることで、弟子たちは、もっと違う理解をしているかどうか、確認しようとしておられるんですね。

その質問にペトロが「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えました。

2週間前、ここで、イエス様が、湖の上を歩いた物語を読みましたが、あの時、ペトロもイエス様の方に向かって、少し水の上を歩いたんですね。そして、そのあと、沈みかけたのを助けていただき、二人が舟に乗り込むと、ペトロ以外の、舟の中にいた人たちが「本当に、あなたは神の子です」と言っていました。もう、このような体験で、弟子たちには、「イエス様は、単なる宗教家ではなく、神様の所から人類を救うために来られた神の子だ。」という経験があったのでしょうか。

そして、今日のところでは、ペトロが代表して答えるわけです。

そうすると、イエス様はその答えを大変喜ばれ、「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。」とか、「陰府の力もこれに対抗できない。」、また、「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。」と言われたのです。

これを根拠にして、カトリック教会は、ペトロを、初代のローマ教皇（一般に言われるローマ法王）に位置づけているのです。

実は、この時点では、厳密に言えば、教会はできていません。イエス様が天に昇られたあと、10日して、聖霊が降った時、弟子たちは力を受けて、イエス様が、ご自分は自己限定して、出てゆかなかった外国にも、弟子たちは伝道に行けたのでした。

このペトロの信仰告白は、他のマルコやルカの福音書にも出てきますが、イエス様は、それに対して教会の話や天の国の鍵の話はされてはいません。このマタイによる福音書が、独自に作ったものです。

それじゃ、嘘なのか。これは勝手に作ったものだから削ったほうがいいのか、ということになるのですが、そうではないでしょう。

この福音書を作った人々は、「ペトロを教会のリーダーに祭り上げよう、」という目的ではなく、たくさん迫害が起こって、あちこちで細々と信仰生活をしているクリスチャンたちに「イエス様を、メシア、生ける神の子」と信仰告白する人びとの集まりは、どんなに小さく弱くても、そこそが教会であって、陰府の力もこれに対抗できない、と励ましている、ということだろうと思うのです。

今日の特祷は、「教会は主の助けによってのみ健全に立つことができます。どうか絶えることのない助けをもって主の教会を清め守り、恵みと力によっていつまでも堅く保ってください。」と祈ります。キリスト教迫害の時代に、マタイによる福音書を作った人々の信仰に通じるものでしょう。

昨日は九州教区の教会の代表が集まって、来年度の財政について話し合い、各教会の分担金を確定させる財政懇談会が開かれました。どのような結果になったか知りませんが、私も7月の教区報に書いたように、九州教区は今年の11月から、財政的に大変な状態に入ります。来年も再来年も、いろいろな困難と出会うでしょう。しかし、救い主メシアであるイエス様に信頼して、お金ではなく、神様に頼り、信頼しながら歩む者でありたいと思います。